

(寄稿)

2014 年度診療報酬改定における DPC/PDPS の変更点と 一般社団法人日本慢性期医療協会が提唱する慢性期 DPC

DPC/PDPS の 2014 年度診療報酬改定は、マイナーチェンジといわれていますが、短期滞在手術等の基本料の見直しによる包括化、更に平均在院日数の算定から除外されるなど、病院運営に影響する改定も盛り込まれています。

これらは、制度改定の中、変りゆく病院運営の実態を踏まえたものであると考えられますが、大きく影響を受ける医療機関も少なくないと思われます。激変期でなく、マイナー改定のこの時期こそ、中長期的な視点で今後のポジショニングの取り方を再検討する機会としてはいかがでしょうか。

今回のヘルスケアノートでは、東京医科歯科大学 医学部附属病院 病院長 補佐・特任講師でもある井上貴裕氏に DPC/PDPS の変更点について寄稿いただきました。井上氏は、これまで経営戦略面の意思決定に関する助言や講演などの活動もされてきており、現在は同病院の経営戦略について担当されております。

本稿では、今期 DPC/PDPS の改定ポイントを簡潔にまとめていただき、今後の課題や論点、更に慢性期 DPC の概要について執筆いただきました。慢性期 DPC については、あくまでも一般社団法人日本慢性期医療協会が提唱した制度として位置づけられますが、慢性期病院の今後のリスクファクターやあり方を検討する上で参考になると考えられます。

(市川)

2014 年 3 月 7 日

Healthcare note

(No. 14-03)

寄稿者名：
東京医科歯科大学
医学部附属病院
病院長補佐・特任講師
井上 貴裕

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
市川 剛志

野村証券株式会社
金融公共公益法人部